

美術科学習指導案

日時 令和3年6月4日（金）第5校時
対象 2年1組 36人（鹿児島大学教育学部附属中学校）
2年2組 29人（与論町立与論中学校）
指導者 教諭 前之園 礼 央（鹿児島大学教育学部附属中学校）
水谷 康 星（与論町立与論中学校）

1 題材 2年 「A表現」（絵に表す） 「B鑑賞」（美術作品を鑑賞する）

2 題材名 「私の大切な場所」～主題と表現方法とのつながりを感じ考え描こう～

3 題材設定の理由

(1) 題材観

現代の社会ではデジタル技術が進歩し、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）により、自室に居ながらあたかも異なる空間に居るかのような体験をすることができるようになった。また、3Dプリンタは頭の中でイメージした形を寸分違わぬ精巧さで立体として描き出し、製品の開発などの効率化や高度化に貢献している。これらデジタル技術の進歩は、手軽に空間や立体のイメージを手に入れられるなど生活が豊かにする反面、現実の対象との関わりの中で意味や価値を見いだしたり、身体的な感覚を伴いながら形やその構造について理解したりするなど、人間らしさを発揮させようとする機会を失わせる可能性も考えられる。これからの時代は「心の豊かさの時代」と言われ、これまでの物質的な豊かさの追求から、質的な豊かさの追求へと変化していくことが求められる。また、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大による社会の変化は、これを大きく後押ししている。デジタル技術の進歩によって生活や社会が効率化したり高度化したりすればするほど、人間が本来もっている身体性に根ざした感覚やそれを源とする創造性などは、今後ますます重要になると考える。

本題材は、生徒に普段何げなく生活している見慣れた風景の中から「大切だ」と思う風景を想起させて主題を創出させ、主題に応じた構図や配色、筆遣いなど、表現方法の効果を考えさせ、その効果を確かめたり味わったりさせながら創造活動の喜びを味わわせることを目指すものである。生徒が「大切だ」と思う風景を見いだしていく中で、普段当たり前のように見えていた風景を異なる視点で見つめ直させたい。このことにより、生徒は見慣れた風景の中に新たな魅力や価値を見いだしたり、大切な風景を見いだすことを通して自分の価値観などに気付いたりすることができる。また、創出した主題を構図や配色、筆遣いなどの表現方法の効果とつなげて表現したり鑑賞させたりすることで、生徒は形や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な視点を基に全体のイメージなどを捉えるなど、〔共通事項〕を実感を伴って理解することができる。と考える。

普段の見慣れた風景の中から感性を働かせて主題を創出したり、主題と表現方法とのつながりを大切にしながら表現や鑑賞したりする学習は、心豊かな生活や社会を創造していくこれからの生徒にとって、「生きる力」を育み「Society5.0」に代表されるような新たな時代を豊かに生きる資質・能力を身に付けるためにも有効であると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。



本学級の生徒は全体的にどの学習活動にも意欲的に取り組み、美術科の学習にも多くの生徒が熱心に取り組んでいる。一方でQ1より「美術科の授業が好き」と答えた生徒は7割弱にとどまっております。主体的に楽しく美術の学習に取り組む点において課題が見られる。その理由として、Q3より「考えたり広げたアイデアを基に、実際に描いたりつくったりすることが苦手」であることを理由にあげている生徒が多くおり、表したい主題と実際に用いている表現方法とのつながりに違和感を感じていたり表現の効果に納得していなかったりしているためと考えられる。

また、Q4より「自分で選んだ風景を絵に表すことが好き」と答えた生徒はQ1同様7割弱であり、Q6よりその理由も実際に描く技能的側面をあげている生徒が多かった。さらにQ7で絵に表すどの段階に課題を感じているか問うと、下描きと彩色、それぞれ同程度苦手と感じていた。

さらに、Q8より美術科の授業で身に付くと思う力について問うと、多くの生徒が教科の本質に

根ざした多くの力が身に付くと考えており、美術科の学習を価値あるものと捉えていることが窺える。また、Q9より美術科も学習で身に付けた力を生活のどのような場面で生かし働かせたかを問うと、多くの生徒が生活の中で形や色彩などの性質やそれら感情にもたらす効果などを生かし、生活を彩り豊かにすることをあげていた。一方で、美術作品や自然物などのよさや美しさを味わうなど鑑賞したり、思いや考えを造形の要素を用いて表すなど表現したりするなどして、美術科の学習で身に付けた力を生かした経験のある生徒は少数であることが分かった。

(3) 指導観

本題材は、事前に生徒に普段見慣れた風景の中から自分が「大切だ」と思う風景を想起させ決定させる。生徒がその風景を「大切だ」と思う理由は、当然個々で違ふと考える。指導に当たっては、これら生徒それぞれがもつ思いや考えなどを教師が大切にし、指導を行っていききたい。

題材の導入の段階では、生徒に自分が選んだ場所の何が大切なのかについて再考させ、生徒が主題を明確にもてるようにさせたい。前述したように生徒は多様な視点で直感を働かせ、自分が「大切だ」と思う風景を見いだしてくることが予想される。しかしともすると、生徒は価値あるものと感じていても、なぜ大切なのかを漠然と捉えている場合があると考える。そこで、生徒に表したい主題を文章で明確にさせ、その後主題に応じた表現方法を考え、考えた表現方法の効果を確かめる際の基準とさせたい。スケッチ等を含めた美術科における言語活動の一層の充実を図り、生徒が表したいと心の中に強く思い描いた主題を明確に捉えられるよう手立てを講じていききたい。

題材の展開の段階では、生徒が明確化された自分の主題を表現するために、構図や配色、筆遣いなどの表現方法を、その効果に応じて吟味、選択して用い主題を絵に表すことができるようにしていききたい。そのために、初めに生徒に構図や配色、筆遣いなどの表現方法の種類とその性質などやそれらが一般に感情にもたらす効果などについて、〔共通事項〕の指導との関連を図り、生徒がそれらを実感を伴って理解できるよう指導していききたい。また、表現の途中では、生徒どうしが互いの作品を鑑賞し、自他の表現のよさや作品の美しさなどを感じ取り、作者の意図に応じたよりよい表現方法について考えて、自他の作品に対する見方や感じ方を深めるとともに、作品の完成に向け、自分なりのよりよい表現方法を見いだす機会をもたせたい。同じ学級の生徒どうしの相互鑑賞も効果的であるが、本校美術室と離れた他の中学校の美術室とをWeb会議システムでつなぎ、生徒が新たな人間関係の中でより多様な意見にふれ、自分の表現方法のよさやよりよい表現方法につながる気付きを得ることができるよう試みたい。このことは、より多様な意見の交流によって生徒の気付きと主体性を高めるとともに、生活や社会の中の美術や美術文化に関わろうとする資質・能力を豊かに育むことにつながるものと考えられる。

題材の終末の段階では、生徒が、同じ学級の生徒や他の中学校の生徒との中間鑑賞により見いだした自分なりのよりよい表現方法を基に、表現の効果を確かめながら創造の喜びを味わいながら作品を完成させられるようにしたい。人間には誰もがよりよい表現をしたいという思いや願いがある。客観的な思考力が大きく発達する中学生では、ともするとそのような思いなどが他の人との表現の比較に終始させたり自分の表現に自信をもてなくさせたりすることがある。他の人の表現のよさを感じ取ることは豊かな人生に欠くことのできないことであるが、同時に自分の表現のよさを感じ取ったり変化に気付いたりすることも同様に創造性豊かに新たな時代を豊かに生きる上で重要であると考えられる。題材全体を通して、自他の表現のよさや美しさなどを豊かに感じ取る感性を育みたい。

4 題材の指導目標

(1) 「知識及び技能」

- 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えることを理解する。〔共通事項〕
- 水彩絵具の生かし方などを身に付け、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。〔「A表現」(2)〕

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

- 大切な場所を想起し、その雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に主題を生み出し、主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練る。〔「A表現」(1)〕
- 造形的なよさや美しさを感じ取り、自分や他の生徒の主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。〔「B鑑賞」(1)〕

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分が大切だと感じた場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

5 指導計画（全体 10 時間：本時 7 / 10）

時	主な学習活動	時	主な学習の活動
1	・ 事前に決めた「大切な場所」について再考し、その理由から作品に表す主題を創出する。 【①解決型プロセス】	（本時） 7	・ 自分の学級や他の中学校の生徒と相互鑑賞を行い、主題を表すためのよりよい表現方法を考える。 【③ 形成型プロセス】
2	・ 構図や配色の種類とその特徴や筆遣いによる表現の効果について理解し、主題に応じた用い方を考える。【①解決型プロセス】	8 } 10	・ 相互鑑賞により見いだした表現方法を基に、主題を豊かに表し作品を完成させる。 【② 創造型プロセス】
3 } 6	・ 主題に応じた構図を選び、その効果を確かめながら主題をよりよく表す下描きをし、主題に応じた配色や筆遣いの効果を生かした彩色をする。 【② 創造型プロセス】		

6 学習に即した単位時間の評価規準及び生徒への手立て

時	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 } 2	・ 構図や配色の種類とその性質やそれらが感情にもたらす効果について理解する。〔共通事項〕 〔C:構図や配色の具体例を示し、それらが感情にもたらす効果について実感的に理解させる。〕	・ 自分が大切だと思う場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に主題を生み出す。〔「A表現」(1)〕 〔C:努力したことや感謝していることなど、これまでの体験などから主題を創出させる。〕	・ 美術の創造活動を味わい、主体的に自分が大切だと思う場所を想起し、主題を創出しようとする。 〔C:自分が努力してきたことや感謝していることなど、対話を通して表したいと心の中に主題を強く思い描けるようにさせる。〕
3 } 6	・ 主題に応じた構図や配色を用いるなど自分なりの表現方法を追求して表現する。〔「A表現」(2)〕 〔C:暖かさや静けさなど、主題のイメージと構図や配色の性質とのつながりを見いださせる。〕	・ 主題に応じて用いる構図や配色、その組み合わせを考えたり、用いた構図の効果を感じ取ったりして豊かな表現の構想を練る。 〔C:主題のイメージと構図の性質とのつながりに着目して考えさせ、その効果を確かめさせる。〕	・ 美術の創造活動を味わい、主体的に主題に応じた構図や配色を考え、その効果を味わいながら表現する学習に取り組もうとする。 〔C:主題のイメージと構図や配色の性質とのつながりに着目して考えさせ、つながりの面白さに気付けるようにさせる。〕

7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などに着目し、大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えることを理解する。〔(共通事項)〕 <p>[C:形や色彩などが感情にもたらす効果などについて具体例を示すなどして、形や色彩の性質などについて実感的に理解させる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大切な場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどの主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを考え、創造的な構成を工夫し、より心豊かに表現する構成を練る。〔(A表現) (1)〕 <p>[C:主題を再び意識させて自分なりの実現状況を捉えさせ、よりよい表現方法を考えさせる。]</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさを感じ取り、自分や他の生徒の主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。〔(B鑑賞) (1)〕 <p>[C:形や色彩などの性質と主題や、作品全体のイメージと表現方法とのつながりなどに着目させる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分や他の生徒が大切だと感じた場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に鑑賞したり、鑑賞したことを基によりよい表現方法を考えたりする学習活動に取り組もうとする。 <p>[C:自分や他の生徒の主題と表現方法のつながりのよさや作品の美しさを味わったり、よりよい表現方法を考えたりすることの面白さや価値に気付けるようにさせる。]</p>
8 (10)	<ul style="list-style-type: none"> 表現に用いる構図や配色の効果を確かめながら、自分なりの表現方法を一層追求して表現する。〔(A表現) (2)〕 <p>[C:形や色彩の性質などや作品全体のイメージと主体とのつながりに着目させる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 造形の要素に着目し、主題のよりよく表現する現方法を考え吟味し、より豊かに表現するための構成を練る。〔(A表現) (1)〕 <p>[C:作品の部分や全体の表現の効果を主題と関連付けさせ、造形的な視点を働かせて捉えさせる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題のよりよい表現に向けて用いる表現方法を考え吟味し、表現する学習に取り組もうとする。 <p>[C:形や色彩などの性質を生かして自分の表現方法を工夫する面白さに気付けるようにさせる。]</p>

〔C:〕はBに到達しない生徒への手立てを示している。

7 本時の実際 (7/10)

(1) 本時の指導目標

ア 「知識及び技能」

形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えることを理解する。〔(共通事項)〕

イ 「思考力、判断力、表現力等」

- 大切な場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどの主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを考え、創造的な構成を工夫し、より心豊かに表現する構成を練る。〔(A表現) (1)〕
- 造形的なよさや美しさを感じ取り、自分や他の生徒の主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。〔(B鑑賞) (1)〕

ウ 「学びに向かう力、人間性等」

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分や他の生徒が大切だと感じた場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に鑑賞したり、鑑賞したことを基によりよい表現方法を考えたりする学習活動に取り組もうとする。

(2) 本時の評価

	評価規準	◎Aの具体例 ■Cの具体例
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などに着目し、大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えることを理解する。〔(共通事項)〕 	<p>◎多様な視点で大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えたり、幅広い視点で形や色彩などの性質と主題とのつながりを捉えたりして、形や色彩などが感情にもたらす効果などについて理解している。</p> <p>■評価基準を基にした「おおむね満足できる」状況に達していない状態。</p>

思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 大切な場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどの主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを考え、創造的な構成を工夫し、より心豊かに表現する構成を練る。「(A表現)」(1) 造形的なよさや美しさを感じ取り、自分や他の生徒の主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。「(B鑑賞)」(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎大切な場所の雰囲気などの主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを深く考え、創造的な構成を独創的に工夫し、より心豊かに表現する構成を練っている ■評価基準を基にした「おおむね満足できる」状況に達していない状態。 ◎造形的なよさや美しさを豊かに感じ取り、自分や他の生徒の主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて深く考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 ■評価基準を基にした「おおむね満足できる」状況に達していない状態。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分や他の生徒が大切だと感じた場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に鑑賞したり、鑑賞したことを基によりよい表現方法を考えたりする学習活動に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎より主体的に深く自分や他の生徒が大切だと感じた場所の雰囲気などを基に鑑賞したり、よりよい表現方法を追求したりする学習活動に取り組もうとしている。 ■評価基準を基にした「おおむね満足できる」状況に達していない状態。

(3) 資質・能力についての関連図

	知識及技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
学校教育目標を三つの柱で整理した資質・能力	<u>物事の本質を深く追究したり、よりよく自己を生かして協働したりするための知識・技能を身に付けるようにする。</u>	<u>目標に向かって知識・技能を効果的に活用し、よりよいものをつくり上げるための必要な力を養う。</u>	<u>自分と他者の理解を深め、よりよいものをつくり上げ、豊かな自尊感情ならびに他者を大切にす深い感情を育み、社会に積極的に参画していく態度を養う。</u>
本校美術科の目標	他者とよりよく協働するなどして、 <u>表したい主題を実現したり、作品などのよさや美しさを感じ取ったりするための知識・技能を身に付ける。</u>	<u>美術の創造活動の喜びを味わうための知識・技能を活用し、自分としての意味や価値をつくりだすために必要な力を養う。</u>	<u>自分や他者の表現や見方や感じ方などを尊重し、よさへの理解を深め、豊かな感性や情操を育み、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる態度を養う。</u>
本題材の目標	形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に <u>大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えることを理解する。</u> （〔共通事項〕） 水彩絵具の生かし方などを身に付け、 <u>意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。</u> （「A表現」(2)）	大切な場所を想起しその雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に主題を生み出し、 <u>主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練る。</u> （「A表現」(1)） 造形的なよさや美しさを感じ取り、自分や他の生徒の <u>主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。</u> （「B鑑賞」(1)）	美術の創造活動の喜びを味わい、 <u>主体的に自分が大切だと感じた場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。</u> (教科論4(1)才) Web 会議システムによる学習を充実させる機器環境の構築などの工夫
本時の目標	形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、 <u>大切な場所の雰囲気などを全体のイメージで捉えることを理解する。</u> （〔共通事項〕）	大切な場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどの <u>主題に応じた構図や配色、筆遣いなどを考え、創造的な構成を工夫し、より心豊かに表現する構成を練る。</u> （「A表現」(1)） 造形的なよさや美しさを感じ取り、自分や他の生徒の <u>主題と表現方法とをつなげる創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。</u> （「B鑑賞」(1)）	美術の創造活動の喜びを味わい、 <u>主体的に自分や他の生徒が大切だと感じた場所の雰囲気やその場所に込めた思いなどを基に鑑賞する学習活動に取り組もうとする。</u> (教科論4(2)力) 外部人材等を用いた表現と鑑賞が相互に関連する学習

(4) 準備するもの

教師： 教科書、美術資料、ワークシート、ノートパソコン

生徒： 教科書、美術資料、アートワークス、アートアルバム、筆記用具

(5) 本時の展開

過程	時間	形態	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備 像
導 入	3分	全体	1 前時までの学習を振り返り	○ 「私の大切な場所」というテーマで主題と表現方法とをつなげながら表現してきたことを思い返させる。	板書の映像
	2分	全体	2 本時の学習目標を知る。 他の中学校の生徒と作品を鑑賞し合い、主題をよりよく表現する方法について考えよう。	○ 学級の生徒どうしの学びに加え、与論中学校と附属中学校の生徒どうしが互いの作品を鑑賞し合うことを伝え、学習目標の達成に向けた意欲を高めさせる。	両校の生徒の映像
展 開	4分	全体	3 作品を鑑賞する視点を確認する。 ① 主題と構図の感じなどとのつながり ② 主題と配色の感じなどとのつながり ③ 主題と筆遣いの感じなどその他の表現方法とのつながり	○ 主題と表現方法とのつながりに着目して表現のよさを実感的に理解できるようにする。 ○ まだ表現されていない配色や筆遣いなどは、ワークシートに書いている内容を基に鑑賞させる。	板書の映像
	8分	全体	4 他の中学校の生徒から作品の主題と表現方法のつながりの話を聞く。(教科論4(1)オ) ・ リビングに、家族との楽しい出が詰まっていることを表すために、躍動感のある対角線、構図や、刺激的な感じの対照色相の配色を使って表現方法を工夫をしているんだな。	○ それぞれの中学校から一人ずつ作品等を提示し、主題と表現方法とのつながりなどについて発表させる。 ○ 発表をさせた後に主題と表現方法との繋がりについて質問したり、生徒に考えさせたりするなどして、生徒が作品を鑑賞する視点への理解を深められるようにする。	卓上提示装置 生徒作品等の映像
	14分	班	5 他の中学校の生徒作品を視点をもって鑑賞し、表現のよさや作品の美しさ、よりよい表現方法にするためのアドバイスを考える。(読み解き・対話する活動) ・ グラウンドに一生懸命に部活動の練習に取り組んだ思いの詰まっていることを表すために、赤色を多めに使っているのが効果的でない。 ・ 絵の具を塗る時に、筆跡を残すような筆遣いをする、より強い感じになるんじゃないかな。	○ 生徒に単に「本物みたいだ」とか「色塗りがうまい」などの視点で作品を鑑賞するのではなく、主題と表現方法とのつながりに着目させる。(コンテンツの視点) ○ 一班に4枚程度の作品とワークシート、付箋を配り、一作品ずつよさを付箋に書かせたり意見を出し合わせたりしながら鑑賞させる。 ○ 机間指導を行い、話し合いが停滞している班への指導を行う。その際は、生徒が造形的な視点を豊かに働かせられるようにする。	他の中学校の生徒作品(データ) ワークシート 付箋
	6分	全体	6 他の中学校の生徒作品を鑑賞して感じたことや考えたことを発表する。	○ それぞれの中学校から一人ずつ他の中学校の生徒作品等を提示し、発表させる。	両校の生徒の映像
	8分	個	7 他の中学校の生徒作品を鑑賞して得た気づきを基に、自分の作品のよりよい表現方法を考える。(思考・吟味する活動)(教科論4(2)カ) ・ 自分が表したい凜とした感じを表すために、今後、縦の線を意識した筆遣いを増やしていけばいいんだな。	○ 生徒に他の中学校の生徒作品を鑑賞したことを思い返させ、感じ考えたことを生かして自分の作品の主題と表現方法とをよりよくつなぐ方法を考えようとする。(プロセスの視点) ○ 次時の初めに他の中学校の生徒からの意見やアドバイスを見て、再度、よりよい表現方法を考えることを伝える。	生徒作品等の映像 両校の生徒の映像
終 末	3分	全体	8 全体で本時の学習を振り返る。(価値を見付け・生み出す活動) ・ 他の中学校の生徒も私たちと同じようなことを感じていたり、異なる考えをもっていたりするんだな。 ・ 他の中学校の生徒の主題と表現方法とをつなげるための工夫を友達と見付けることが、自分の表現の参考になったな。	○ 次時の学習につながるよう、学んだことや気付いたことなどをワークシートに記入させる。 ○ それぞれの中学校から一人ずつ本時の学習で感じ考えたことを発表させる。 ○ 発表させた後に、主題をよりよく表現するための表現方法の変化などについて質問する。 ○ 本時の学習を通して追加の資料が必要だと感じた場合は、次時に持参させる。	ワークシート 板書の映像
	2分	全体	9 次時の予告を聞く。	○ 次の時間から本時の学びを生かして作品の仕上げを行うことを伝える。	両校の生徒の映像